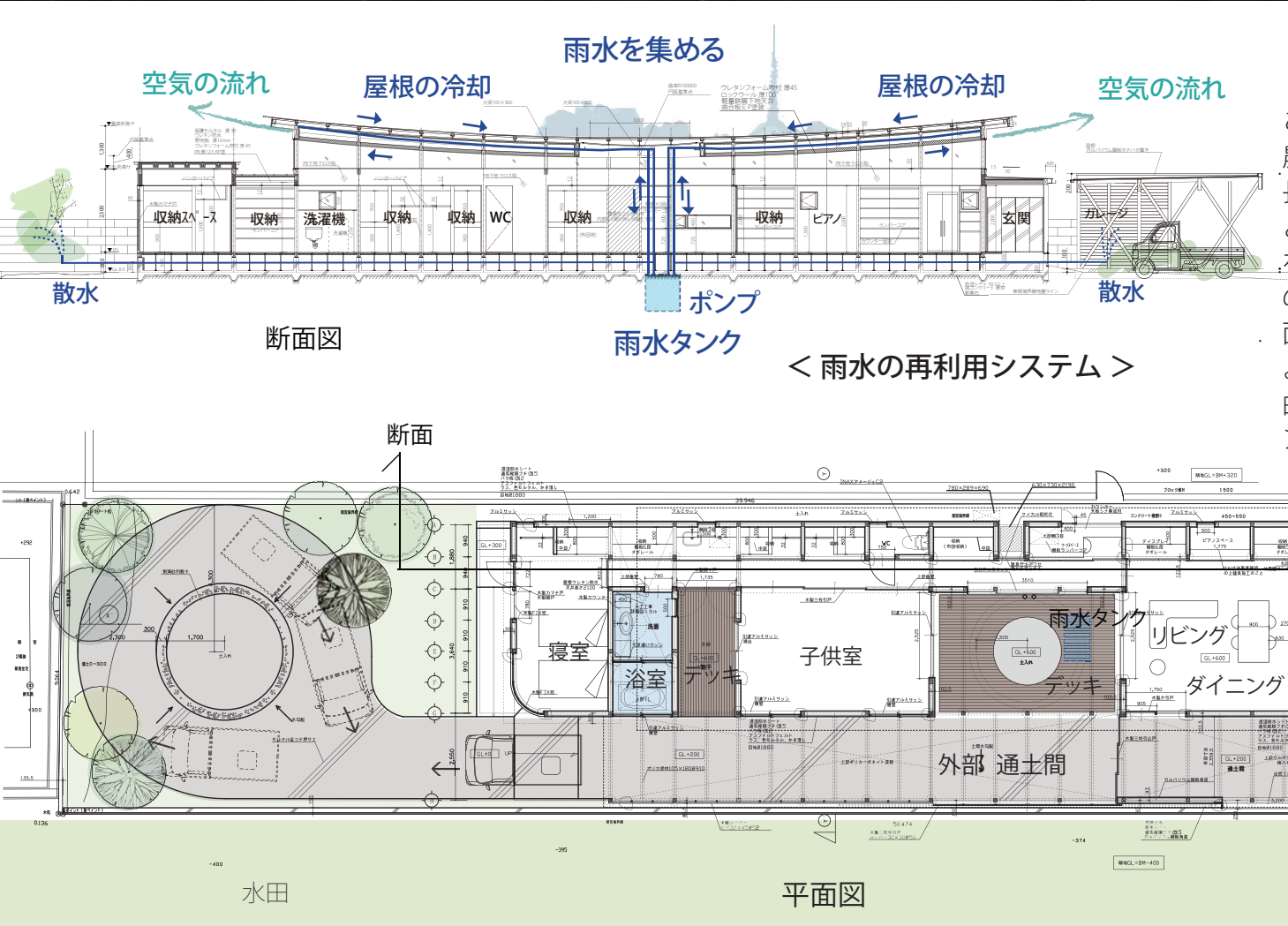


# 雨を集める木製デッキの屋根 「百済寺の家」

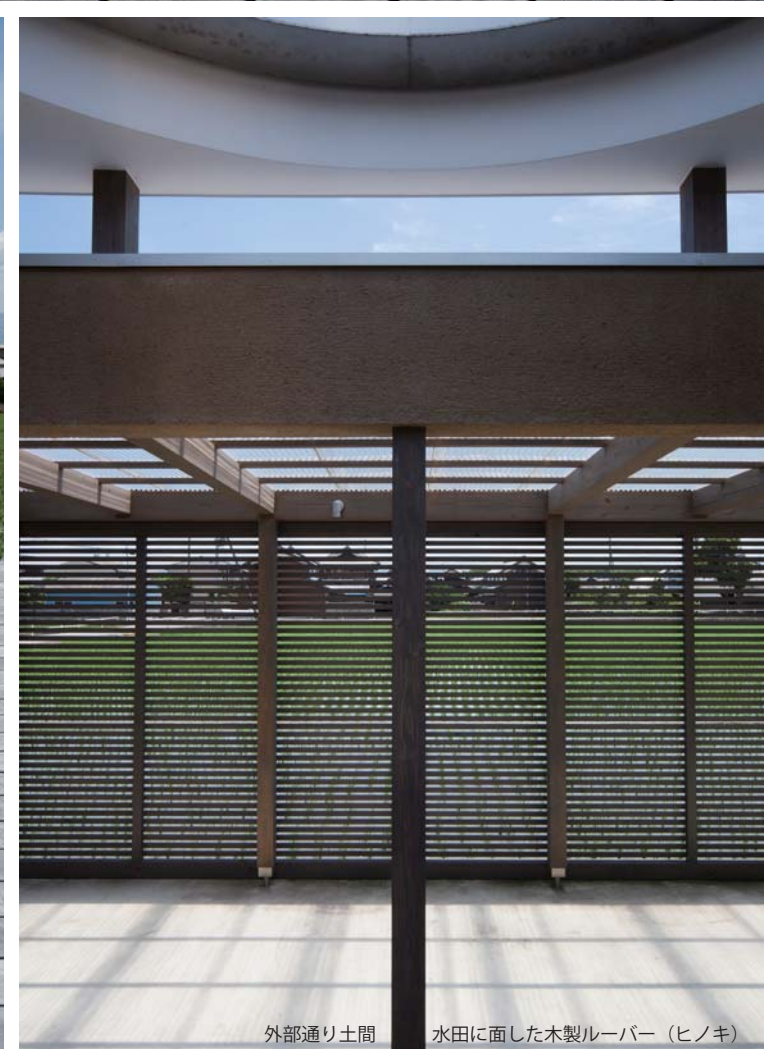
雨水利用と環境との調和をめざす農家住宅

建築地：奈良県北葛城郡  
敷地面積： 462.53 m<sup>2</sup>  
構造規模：木造 平屋建  
建築面積： 202.68 m<sup>2</sup>  
延床面積： 190.75 m<sup>2</sup>



## <断熱と環境調和のデッキ屋根>

この住宅は、奈良盆地の中央付近の田園地帯に計画した農家住宅で、水田に囲まれた都市部では考えられない細長い敷地である。雨水を再利用するため、屋根を逆曲面とし、仕上げに断熱効果もあるデッキ材を貼り、その下を流れる雨を中庭の地中タンクに集め、暑い日には屋根の両端からポンプで流し、雨水の再利用システムで屋根面を冷却したり、庭の水撒きや外部の清掃に利用できるようにしている。そのことで省エネを計ると共に、曲線の屋根は、重要文化財の百済寺の塔と対比的デザインとなり、田園地帯の環境に調和することが出来た。



外部通り土間 水田に面した木製ルーバー（ヒノキ）